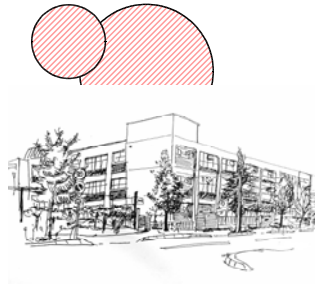


# 明星中学校だより 知と和と粘り



〒 070-0025 旭川市東5条1丁目

Tel 0166-26-0468 Fax 26-0469

E-mail: myojyo@myojyo.jhs.asahikawa-hkd.ed.jp

■発行責任者 校長 増茂 薫

■発行日 平成24年7月25日

◇第12号◇

## 「チーム明星」とともに

校長 増茂 薫

私は7月4日に行われた中連夏季大会の壮行会で、ユニフォームを着た130名余りの選手達に向かって「チーム明星の気迫を感じます。」と話しました。しかし、このことが正しくなかったことに気付かされます。それは野球の全校応援でのことです。

野球部は4年ぶりにベスト4に進出し、見事に決勝までコマを進めました。久しぶりのスタルヒン球場での全校応援です。その応援はまさしく「チーム明星」でした。昔と違い、今はほとんどの中学校に応援団はいません。したがって全校応援といっても練習する場面がありません。

雨天順延となった決勝戦。7月6日は前日の雨天が嘘のような絶好の野球日和でした。対戦相手は北門中学校です。全校生徒と教職員が吹奏楽の演奏に合わせて、必死の応援です。練習していないのに、前号の学校だよりの写真にあるように、全員が同じ空間、同じ時間、そして同じ目的に向かって心一つにできたこの全校応援こそがまさに「チーム明星」だったのです。

感動しました。試合は残念ながら0-3で負けてしまいましたが、試合終了後に、北門中学校の選手と応援団に向かって「プレープレー北門！」とエールを送りました。北門中の野球部が全員帽子をとって、深々と明星中に向かって「ありがとうございました！」と礼を返してくれたのですが、ジーンとしたのは私一人ではなかったはずでした。野球の当番校の六合中学校の校長先生からも「明星中学校の全校応援、素晴らしかったですね。」とお褒めの言葉をいただきました。

今日で1学期が終わりますが、夏休み明けからいよいよ大きな行事の一つの明星祭の準備が始まります。全校生徒330人と36人の職員の「チーム明星」の力を結集して、感動を味わえる明星祭にしたいと考えています。



のきずな61キャンペーン（日本PTA全国協議会事業）へのご協力、大変ありがとうございました。12日（木）に案内ビラを配付して「17日（火）までにお届けを」という短い期間だったにも関わらず、21人の生徒を通して、

**10,749円**の募金をいただきました。

大変ありがとうございました。

あれから、1年4ヵ月も経とうとしているのに、遠く異国の海岸に打ち上がる漂流物が、当時の生々しい記憶を呼び覚まします。被災地の皆様のお役に立つことを願って、7/19（金）15時に市P連事務局が指定する口座に振込をいたしました。



の交流会（PTA主催）に、141人が参加して下さいました。過日、収支決算書をお渡ししたとおり、**173,216円**の収益があり、PTA協賛会会計に繰り入れさせていただきました。

例年よりも大勢の方々がチケットを購入して下さいました。顧問からの部活動紹介や抽選会で大いに盛り上がりました。詳細は、本日発行予定のPTA広報紙第1号をご覧ください。

実行委員の皆様には、暑い中、午前中から準備していただきました。前日までの企画・準備に加え、当日は調理に飲み物、焼き鳥、会場づくり、運営等…お陰様で、出席者のほとんどが大満足とのアンケート結果を残して下さいました。

缶チューハイやサクランボ、景品のほとんどは寄附であること、昨年までPTA本部役員だった方々のご好意によって食材等の一部も破格値でご提供いただいたことをお知らせいたします。



ンダストプロジェクトに、ご協力いただきました保護者や地域の皆様方、誠にありがとうございました。

とても日差しの厳しい6月29日でした。軍手をはき、ゴミ袋や火箸をもって汗を拭きながらの活動になりました。一箇所でしたが集合場所の変更が、その町内会に伝わらず、大変、ご迷惑をおかけしました。今後、変更があった場合、責任をもってしっかり連絡をし直すよう徹底します。すみませんでした。

生徒に感想を聞くと、やはりタバコや空き缶のポイ捨てが多かったようです。また、地域によってはほとんどゴミがなく、それでももっと美しい道路を目指して、小さなゴミを拾ったという生徒もいました。大人の方々にねぎらいの言葉をかけられたので頑張ったという生徒もたくさんいました。ありがとうございました。



イスとテーブルが、全部で4セット。中庭と体育館堤防側出入口



の芝生に置かれ、1ヵ月が経ちました。天気の良い昼休みには、思い思いの仲間と自由に座り、談笑したり休んだり…。3人の3年男子が座って

いるところを見た鎌田先生は、仕事の手を休め、「ちょっと、（雑談しに）行ってこよう」と。鎌田先生が、空いている席に座っても、3年生は嫌がる様子もなく、自然に溶け込んでいった様子でした。鎌田先生の良い人柄が生徒に受け入れられているんだなと思うと同時に、3人の生徒も偉いなと感じました。また体育館側のセットでは、今度は齊藤先生と大坪君と大石君（共に全道出場選手）の3人が、日向ぼっこ。互いに「何か話をしなくちゃ」と言った堅い雰囲気ではなく、まるで仲の良い親子？。



体育館でボール遊びをするのもよし、図書室で本を読むのもよし、教室のベランダで風に当たるのもよし…。私達が中学生だった大昔だって、中学生にとって昼休みは貴重な時間でした。別に思い出に残るような何かをしていた訳ではありませんが、何もしない時間だって生活のなかでは大切だと思うのです。

学校だより「第9号修正版」の訂正

「女子200m 小野寺晴香君」→「小野寺晴香さん」

学校だより「第10号」の訂正

「羽田 友也君（準決勝で11"80を）」→「11"84を」

■発行責任者 校長 増茂 薫

■発行日 平成24年7月25日

◇第12号◇